

第66回 発電用設備規格委員会 議事録

1. 日 時：2013年9月11日（水） 10:00～17:30

2. 場 所：日本機械学会 第1会議室

3. 出席者：

森下（JAEA）、宮口（IHI）、波木井（東電）、伊勢田（新日鉄住金）、高橋（電中研）、鈴木（中部電力）
影山（東大）、小山（三菱重工）、金子（東大）、川畑（AM：日立）、木村（NIMS）、鈴木（長岡技大）
船橋（火原協）、宮口（三菱重工）、楠橋（JSW）、湯原（AM：キャノン研）

代理：

杉江（原安進：伊藤委員）、吉田（東電：浜田委員）、瀬良（関電：白崎委員）

松田（HSB：渡部委員）、三好（川崎重工：島川委員）、堂崎（PM：日本原電：村部委員）

浦辺（AM：日本原電：村部委員）、齋藤（東芝：平山委員）、飯田（東電：小溝委員）

齋藤（PM：原安進：湯原委員）、永田（PM：日立GE：川畑委員）

欠席：

寺井（東大）、舟木（経産省）、永田（三菱 FBR）

オブザーバー：

永田（日立GE）、山田（中部電力）、北条／茅田（三菱重工）、日野（大林組）、三枝（電中研）

下条（神戸製鋼）、加納／高坂（JNFL）、西澤（日本原電）、野村（関西電力）、安達（東芝）

事務局：小沢、海野、釜田、栗津、高柳

4. 配布資料：

66-1：第65回発電用設備規格委員会議事録案

66-2：発電用設備規格委員会名簿案

66-3：各専門委員会名簿案

66-4：発電用設備規格委員会幹事会概要

66-5：書面投票結果

66-6-1：設計・建設規格（2013年追補）第Ⅰ編軽水炉規格公衆審査結果

66-6-2：設計・建設規格（2013年追補）第Ⅱ編高速炉規格公衆審査結果

66-6-3：設計・建設規格 事例規格 発電用原子力設備の設計・建設に関わる一般事項の適用公衆審査結果

66-6-4：発電用原子力設備規格 外部事象シビアアクシデント対策 設備設計ガイドライン（BWR編）公衆
審査結果

66-6-5：質問受付回答状況

66-7：火力専門委員会報告

66-8：原子力専門委員会報告

66-9：材料専門委員会報告

66-10：核融合専門委員会報告

66-11-1：委員会資料取扱内規の書面投票依頼

66-11-2-1：規格委員会 運営規約 Rev. 13 案

66-11-2-2：規格委員会 運営規約 Rev. 13 案 新旧比較表

66-11-2-3：発電用設備規格の公衆意見募集方法の変更について

66-11-4：原子力関連学協会規格類協議会資料

66-11-6：シビアアクシデント時の構造健全性評価ガイドライン（PWRプレストレストコンクリート製格納容
器編）策定に関する検討状況

66-11-7：運営・企画委員会の審議状況

66-11-8：発電用設備規格委員会委員長の選任について

66-11-3：シビアアクシデント時格納容器構造健全性評価ガイドライン案原専書面投票コメント対応

66-11-9：日本機械学会誌ノート廃止の影響について

66-13-1：発電用設備規格委員会書面投票（N0.233）に対するコメント回答に向けた方針

66-14-1：封止溶接方法規格案

66-14-2：ステンレス鋼の材料定数の誤記修正

66-15-1：規格委員会再書面投票意見（NO. 231）回答案
66-15-2：規格委員会書面投票意見（NO. 230）回答案
66-15-3：溶接規格 2013 年追補改訂案公衆審査提案
66-16-1-1：設計・建設規格第Ⅰ編 2014 年追補改訂案について
66-16-1-2：設計・建設規格 2014 年追補改訂案件一覧表
66-16-2：設計・建設規格第Ⅰ編 2012 年版正誤表提案
66-17-1：発電用設備規格委員会での溶接規格改定（案）に対する投票結果について
66-17-2：再処理設備規格 維持規格の改定（案）
66-18-1：規格委員会書面投票結果対応について
66-18-2：材料規格 2013 年追補案に対する追加改訂提案について
66-20-1：CCV改訂案審議項目
66-20-2：CCV改訂案に対する原子力専門委員会投票結果
66-20-3：CCV改訂案に対する原子力専門委員会コメント対応表
66-20-4：CCV改訂案現行規格（2011 年版）との比較表
66-20-5：CCV改訂案の概要
66-21：ASME 規格関係委員会の活動状況報告
参考資料：2012 年度活動実績報告書

5. 議事内容

（1）開会

定足数の確保を確認し、森下委員長より開会が宣言された後、宮口副委員長より規制委員会からの要請により規格委員会幹事会で検討を行った結果、今回の規格委員会の議事について前回に引き続き試験的に録音を行うとの説明があった。

（2）議事次第確認

議事次第案の確認を行い、変更の提案はなく承認された。

（3）前回議事録確認【資料 66-1】

事務局より前回議事録案の内容について報告が行われた。意見、気付き事項の確認を行った結果、意見等はなく、議事録案は承認された。

（4）規格委員会及び各専門委員会の委員の承認等【資料 66-2, 3】

事務局より以下の通り規格委員会及び各専門委員会委員の再任、退任、新任候補が報告され、オブザーバー／事務局退出後、委員の承認等が審議され、出席委員全員の賛成で承認された。

規格委員会

〔再任〕影山委員

〔退任〕吉田委員，村部委員，菅野委員

〔新任〕押部氏（発電技検），荒川氏（電気協会），堂崎氏（日本原電）

火力専門委員会

〔再任〕藤田副委員長，飯田幹事，三好委員，佐藤委員

〔退任〕高西委員

〔新任〕桑野氏（関西電力）

原子力専門委員会

〔再任〕鹿島委員，町田委員

〔退任〕糸田川委員，堂崎幹事，菊池委員

〔新任〕古川氏（電気協会），小林氏（日本原電）

材料専門委員会

〔退任〕尾崎委員，吉田委員，船田委員，田村委員

〔新任〕 井手氏（東京電力）
核融合専門委員会
〔再任〕 井岡委員
〔退任〕 大北委員
〔新任〕 川田教授（早稲田大）

（５）発電用設備規格委員会活動状況報告

（５－１）規格委員会幹事会報告【資料 66-4】

波木井幹事より第 50 回、第 51 回の規格委員会幹事会概要として規格委員会が当面注力すべき課題、新安全基準に対応した規格制定、規格委員会運営規約の改訂、技術評価準備等に関する説明が行われた。

（５－２）書面投票結果【資料 66-5】

事務局より規格委員会と各専門委員会の書面投票結果について説明が行われた。

（５－３）公衆審査報告【資料 66-6-1～4】

事務局より以下の各規格の公衆審査結果について説明が行われた。

- ・設計建設規格（2013 年追補）第Ⅰ編軽水炉規格→意見なし
- ・設計建設規格（2013 年追補）第Ⅱ編高速炉規格→意見なし
- ・設計建設規格事例規格発電用原子力設備の設計建設に関わる一般事項の適用→意見なし
- ・外部事象シビアアクシデント対策設備設計ガイドライン（BWR 編）→意見なし

（５－４）質問受付回答状況【資料 66-6-5】

事務局より発電用原子力設備規格に関する質問受付回答状況について説明が行われた。

設計・建設規格、金属キャスク構造規格、溶接規格について各々 1 件の質問が寄せられた。この内、溶接規格以外の全ての質問に対する回答が第 74 回原子力専門委員会において承認されたので、以下の通り質問者への回答実施&ホームページへの回答アップを行った。また、溶接規格に対する質問に関しては更なる検討を必要とする要素があるため継続して検討中であることが報告された。

- ・QNC2005106：ASME SA479 等の JIS 同等性（回答日：2013, 8, 28）
- ・QFA200718：別表 1-1「使用する材料の規格」と ASME 材の同等性に関する確認依頼（回答日：2013, 8, 28）

（５－５）火力専門委員会報告【資料 66-7】

飯田火力専門委員会幹事より、火力専門委員会の活動状況として、分科会活動状況、火力専門委員会委員長選任手続等に関する説明が行われた。

（５－６）原子力専門委員会報告【資料 66-8】

小山原子力専門委員会委員長より、原子力専門委員会の活動状況として、委員会資料取扱内規の検討状況、シビアアクシデント時格納容器構造健全性評価ガイドラインの原専再書面投票状況、シビアアクシデント時の構造健全性評価ガイドライン（PWR-PCCV）の検討状況、維持規格における封止溶接方法規格案の検討状況、金属キャスク構造規格改訂案の規格委員会書面投票対応状況等に関する説明が行われた。

（５－７）材料専門委員会報告【資料 66-9】

高橋材料専門委員会委員長より、材料専門委員会の活動状況として、材料専門委員会課題対応状況、分科会設置の今後の予定、材料事象の解説書面投票対応等に関する説明が行われた。

（５－８）核融合専門委員会報告【資料 66-10】

高橋核融合専門委員会委員長より、核融合専門委員会の活動状況として、超伝導マグネット構造規格関連作業計画の提案、分科会の統廃合（従来の 3 分科会を金属材料分科会に統合し、金属・非金属の 2 本立てとする）

等に関する説明が行われた。

(6) 発電用設備規格委員会運営に関する審議／報告

[審議事項]

(6-1) 委員会資料取扱内規案に関する書面投票【資料 66-11-1】

小山原専長より委員会資料取扱内規案に関する書面投票状況に関する説明が行われた。原子力専門委員会書面投票は可決。今後、火力専門委員会等、他の専門委員会書面投票を実施する予定。

(6-2) 規格委員会運営規約改訂案【資料 66-11-2-1, 2】

宮口副委員長より規格委員会運営規約改訂案に関する説明が行われた。今回の改訂案の主目的は、①規制側メンバー（NRA 及び JNES）が委員会に参加する際に、投票権はないものの、委員会に参加して自由に意見を述べるができるようにして欲しいとの要望に対応する為に「常時参加者」との区分を設定することに伴う変更、②審議の効率化・迅速化を目的としたメール審議の一部導入等の審議要領の変更、及び③補足倫理規定の追記等のデュープロセスやガバナンス改善の為の変更、の3点である。議論の結果、規格委員会書面投票を実施することが委員全員の賛成により承認された。

(6-3) 発電用設備規格の公衆意見募集方法の変更について【資料 66-11-2-3】

事務局より発電用設備規格の公衆意見募集方法の変更に関する説明が行われた。公衆審査はこれまで関係各所に規格案のコピーを送付する一方、機械学会事務室に規格案を置いて公衆審査の意見を頂戴していた。しかし、より多くの方々から公衆審査の意見を頂戴するため、機械学会に来訪されなくても規格案が分かる様に、今後規格案を直接ホームページから閲覧できる様な運用に変えることを計画。議論の結果、本案に変更することが委員全員の賛成により承認された。

[報告事項]

(6-4) 原子力関連学協会規格類協議会資料【資料 66-11-4】

宮口副委員長より原子力関連学協会規格類協議会の状況に関する説明が行われた。H25, 6, 19 に原子力規制委員会から今後の民間規格活用の方針が示され、規制庁職員の機械学会等の委員会に参加する際の方針が示された。そこでは規制庁職員は投票権はないものの、委員会に参加して自由に意見を述べるができる「常時参加者」という区分で参加を希望している。3 学協会はこれに応えるべき、各々で規約の改訂等の対応を検討中である。また、もう一件のテーマである民間規格の技術評価再開については（6-5）による。

(6-5) 技術評価の状況

小山原専長より技術評価の状況に関する説明が行われた。技術評価に関する規制庁の方針が決定し、規制庁内に検討チームが設置され、今後技術評価を実施する。機械学会規格では、まずは設計・建設規格 2012 年版と材料規格 2012 年版が実施される予定で、目標は年内終了となっているが評価書のパブリックコメントもあるのでやや伸びるかも知れない。

(6-6) シビアアクシデント（SA）時の構造健全性評価ガイドライン（PWR PCCV）策定に関する検討状況【資料 66-11-6】

瀬良タスク幹事より、シビアアクシデント時の構造健全性評価ガイドライン（PWRプレストレストコンクリート製格納容器編）策定に関する検討状況に関する説明が行われた。現在、ライナに関する背圧による損傷モード、判定基準における歪み集中係数の検討等実施中。次回以降原子力専門委員会にて書面投票提案予定。主な議論は以下の通り。

- ・電気ペネトレーションや機器ハッチの有機シールが 300℃まで耐性を有するとのことだが、BWRの電気ペネトレーションや機器ハッチ等との差異はあるのか？→基本的には類似の構造であるが、電気ペネトレーションのシーラントの材料等は相違するかもしれない。
- ・シビアアクシデント時の格納容器内温度圧力遷移例が記載されているが、このケースで実際のシビアアクシデント時の事象がカバーされているのか？→この解析ケースは 75%炉心溶融と所謂メルトスルーを生じた場

合の格納容器内温度・圧力の解析結果を示したものであり、PWR の場合はメルトスルー発生時にも格納容器ブリーチには達しないとの結果となっている、とのこと。

(6-7) 運営・企画委員会の審議状況【資料 66-11-7】

事務局より標準・規格センター運営・企画委員会での審議状況に関する説明が行われた。今回は以下の3件の事例規格の発行承認が得られた。

- ・設計建設規格 事例規格 圧力容器用調質型合金鋼鍛鋼品 S F V Q 1 B に関する規定改訂版
- ・維持規格 事例規格 極限荷重評価法に用いる流動応力
- ・金属キャスク構造規格 事例規格 バスケット用合金に関する規定

(6-8) 規格委員会委員長の選任手続【資料 66-11-8】

事務局より規格委員会委員長の選任手続に関する説明が行われた。規格委員会委員長の任期(2期目)が2014年1月末で満了となるため、規約に従い規格委員会委員長の選任手続を実施する。まず2週間の期限で次期委員長候補の推薦を行い、その後、2週間の期限で委員長選挙を実施する。

(6-9) 日本機械学会誌ノート廃止の影響【資料 66-11-9】

小山原専長より日本機械学会誌ノート廃止の影響に関する説明が行われた。今後ノートが機械学会論文集からなくなる予定。現在 JSME での規格策定での検討結果、策定のための技術的根拠を公開するには M&M 材力コンフェレンスしかないが、2 ページと限定されており、数ページ以上のまとまった内容の成果を公開するのは ASME PVP しかない。そのため、場合により JSME に規格策定の技術的根拠のペーパーを受け入れる雑誌発行を申し入れる予定。本件、意見があれば小山原専長まで連絡することになった。

(6-10) 2012 年度活動実績報告書

事務局より参考情報として、発電用設備規格委員会の 2012 年度活動実績報告書が紹介された。

(7) 火力発電用設備規格に関する審議

火力専門委員会の飯田幹事より、本日の規格委員会では火力発電用設備規格に関する審議事項はないことが報告された。

(8) 原子力発電用設備規格に関する審議

(8-1) シビアアクシデント時格納容器構造健全性評価ガイドライン案に関する審議【資料 66-11-3】

永田タスク主査よりシビアアクシデント時格納容器構造健全性評価ガイドライン案の原子力専門委員会書面投票(可決)コメント対応案に関する説明が行われた。コメント対応によりガイドライン案の一部に技術的変更が生じたため、現在原子力専門委員会再書面投票実施中。議論の結果、原子力専門委員会再書面投票可決条件に規格委員会書面投票を実施することが委員全員の賛成により承認された。主な議論は以下の通り。

・コメントの多くは、ガイドライン案の規定外の荷重に関することがほとんどであり、例えば新安全基準を受けた格納容器直接加熱時の荷重をどう評価するのか?といったものである。それら過温・過圧破損以外の格納容器損傷モードの評価は主に熱水力学的評価や化学的評価なので、3 学協会で纏めた分担案では原学会が担当する計画となっていることを説明している。

・規格委員会書面投票は原専書面投票コメント対応での修正箇所を朱書き明示した版で行うのか?→規格委員会書面投票用にクリア版のガイドライン案を用意する。

(8-2) 再処理設備規格に関する審議【資料 66-17-1, 2】

再処理設備分科会の加納幹事、溶接規格作業会の高坂幹事より再処理設備規格改訂案に関する説明が行われた。内容は以下の通り。

①溶接規格改定案【資料 66-17-1】

溶接規格改定案の規格委員会書面投票（可決）コメント対応案に関する説明が行われた。議論の結果、対応案が妥当であることが委員全員の賛成により承認された。

②維持規格改定案【資料 66-17-2】

維持規格改定案と改定案への原子力専門委員会御意見伺いの書面投票に対するコメント回答に関する説明が行われた。議論の結果、規格委員会への御意見伺いの書面投票を実施することが委員全員の賛成により承認された。主な議論は以下の通り。

- ・再処理設備補修技術項目一覧について、再処理特有の補修方法は概要を記載すること。→拝承。
- ・軽水炉の維持規格で規定されている補修技術は既に現場適用済の実証された技術であるが、再処理設備の維持規格の場合はどうなのか？→再処理特有の補修方法については、確性試験を行い発電設備技術検査協会の確性試験委員会等で検証した上で規定する。

（８－３）使用済燃料貯蔵施設規格に関する審議【資料 66-13-1】

使用済燃料貯蔵施設分科会の三枝主査，下条委員より金属キャスク構造規格 2013 年版改訂案の規格委員会書面投票（反対票有り）コメント回答に向けた方針に関する説明が行われた。

書面投票での意見は同一キャスクに複数の規格年版を適用することや適用年版の判断を設計者が行うことは不可，ほう素添加アルミニウムのクリープ等の経年変化の評価等である。今後は規格委員会，原子力専門委員会等関係者が集まり，対応案の検討を行うことになった。主な議論は以下の通り。

- ・年度の異なる規格間の Compatibility は保証されないので，部品毎に年版の異なる規格を適用することは基本的に困難である。
- ・規格は duty and responsibility の基に策定される。異なる年版の規格を，ある限定された部品に適用することを設計者が判断するというのは考え方として問題がある。
- ・論点ベースで関係者が集まり問題を整理する必要がある。

（８－４）維持規格に関する審議【資料 66-14-1～4】

維持規格分科会の野村主査，検査作業会の浦邊主査，評価作業会の北条主査，補修作業会の安達主査より維持規格改訂案に関する説明が行われた。内容は以下の通り。

① 封止溶接方法規格案【資料 66-14-1】

規格委員会書面投票（反対票有り）の意見回答案に関する説明が行われた。反対意見の菅野委員は意見回答案を了解，反対意見を取下げ。吉田委員は封止溶接の確性試験において EDM スリットでは封止溶接部での温度プロファイルに影響があったという知見を解説に残すこと，SCC き裂は EDM スリットのように開口部は広いことはなく，また，SCC き裂によるテンパー効果への影響は小さいと考えられること等から，大筋で意見回答案を了解。議論の結果，吉田委員は大筋で意見回答案を了解しているものの，他界され反対意見の取下げが明確にされていないため，吉田委員意見回答を対象に二次投票を実施することが委員多数の賛成（賛成：21 票，保留 1 票）により承認された。なお二次投票に当たっては，意見回答案が編集上の修正であることを委員長が事前に確認した上で，二次投票に進むこととなった。

② ステンレス鋼の材料定数の誤記修正【資料 66-14-2】

規格委員会二次投票（可決）の意見回答案に関する説明が行われた。Z 係数式そのものも直さないのか？という保留意見に対しては「今回の提案はあくまで元文献の表の数値の単なる誤記訂正であり，誤記訂正した J-R 曲線が文献記載値に完全に一致することを確認している。追加で説明した Z 係数の再現解析においてその算出プロセスを完全にはトレース出来なかったことは基本的には別の問題である。従って，次に Z 係数を算出するときはトレーサビリティを確保する。」という回答。議論の結果，保留意見回答案は妥当であり，賛成意見での指摘による規格案修正は編集上の修正であることが委員全員の賛成により承認された。

③ 弁，ポンプの溶接継手に関連する非破壊検査要求の適性化に関する誤記訂正【資料 66-14-3】

弁、ポンプの溶接継手に関連する非破壊検査要求の適性化に関する誤記訂正に関する説明が行われた。議論の結果、誤記訂正が妥当であることが委員全員の賛成により承認された。

④維持規格 2013 年追補案公衆審査提案【資料 66-14-4】

維持規格 2013 年追補案公衆審査提案に関する説明が行われた。議論の結果、公衆審査を実施することが委員全員の賛成により承認された。

(8-5) 溶接規格に関する審議【資料 66-15-1, 2】

溶接分科会の杉江幹事より溶接規格改訂案に関する説明が行われた。内容は以下の通り。

①規格委員会再書面投票意見 (No. 231) 回答案【資料 66-15-1】

PWHT 保持時間に関する改訂案の規格委員会再書面投票 (可決) 意見回答案に関する説明が行われた。議論の結果、意見回答案は妥当であり、編集上の修正であることが委員全員の賛成により承認された。

②規格委員会書面投票意見 (No. 230) 回答案【資料 66-15-2】

「溶接規格 2013 年追補改訂案その 2」に関する規格委員会書面投票 (可決) 意見回答案に関する説明が行われた。議論の結果、意見回答案は妥当であり、編集上の修正であることが委員全員の賛成により承認された。主な議論は以下の通り。

- ・「裏はつりについて解説の中のみで詳細に記述すると本文を含めた規定全体のバランスが非常に悪くなるので、本文規定化を検討すべき」との意見はもっともなので、今後の改訂において本文規定全体の充実化を図る段階で検討することになっている。→「別途検討」案件が大幅増えてきたので、それらの進捗状況を随時フォローできるように Tracker 化しておくことが必要である。他の規格を含めて原子力専門委員会にて対応を検討して欲しい。
- ・コンクリート製原子炉格納容器溶接規格に関し、コンクリートに埋設される溶接継手に機械試験を要求しない理由として、コンクリートに埋設される継手はコンクリート躯体と一体化しており、変形挙動はコンクリート躯体に支配されることから、溶接部への荷重、歪みの集中は生じないとしているが、マクロ的に見れば確かにコンクリート躯体と一体化していると思う。しかし、ミクロ的に見れば歪みの集中は発生しているのではないかと→コンクリートの変形以上の変形はないとの意味であり、許容歪みが小さいコンクリートの方が先に壊れるので埋設鋼製部の破損に対する特別な考慮は不要と考える。但し、コンクリートの変形挙動をどこまで制限するのか? という問題もあるので、表現については今後検討する。
- ・コンクリート製原子炉格納容器規格でエネ庁の大飯 3, 4 号 PCCV 技術指針を引用しているが、JSME 規格に技術的根拠として引用する必要はないのでは? 記載する場合も「なお書き」とした方が良い。→拝承。
- ・事例規格「母材の区分」改訂 (案) に対する意見
SA182 Gr. F12 CL. 3 は CL. 2 の間違いでは? →拝承。
JIS H 3300 C1020 系の成分は 99.96%ではなく 99.95%ではないか? 再度確認すること。→拝承。

③溶接規格 2013 年追補改訂案公衆審査提案【資料 66-15-3】

溶接規格 2013 年追補改訂案公衆審査提案に関する説明が行われた。議論の結果、公衆審査を実施することが委員全員の賛成により承認された。

(8-6) 設計・建設規格に関する審議【資料 66-16-1, 2】

設計・建設分科会の永田主査より、設計・建設規格改訂案に関する説明が行われた。内容は以下の通り。

①設計・建設規格 2014 年追補改訂案【資料 66-16-1】

設計・建設規格 2014 年追補改訂案に関する説明が行われた。議論の結果、原子力専門委員会書面投票可決を条件に規格委員会書面投票を実施することが委員全員の賛成により承認された。

②設計・建設規格第 I 編 2012 年版正誤表提案【資料 66-16-2】

設計・建設規格第Ⅰ編 2012 年版正誤表提案に関する説明が行われた。議論の結果、誤記訂正が妥当であることが委員全員の賛成により承認された。

(8-7) 材料規格に関する審議【資料 66-18-1~3】

材料分科会の山田主査より、材料規格改訂案に関する説明が行われた。内容は以下の通り。

① 材料規格 2012 年版改訂案（その 2）規格委員会書面投票対応【資料 66-18-1】

材料規格 2012 年版改訂案（その 2）規格委員会書面投票（可決）回答案に関する説明が行われた。議論の結果、回答案は妥当であり、編集上の修正であることが委員全員の賛成により承認された。なお、参考として宮口副委員長より外圧チャート変更案の比較評価が紹介され、今後の改訂の参考にすることになった。

② 材料規格 2013 年追補案に対する追加改訂提案【資料 66-18-2】

材料規格 2013 年追補案に対する追加改訂提案に関する説明が行われた。材料規格 2012 年版改訂案（その 1）の項目番号 2「JIS 年版の指定方法について」にて可決された案件に反映漏れがあり、編集上の修正として追加改訂提案が行われ、改訂案は妥当であり、編集上の修正であることが委員全員の賛成により承認された。なお原子力専門委員会における承認はメール審議により行うことになった。

③ 材料規格 2013 年追補案公衆審査提案【資料 66-18-3】

材料規格 2013 年追補案公衆審査提案に関する説明が行われた。議論の結果、公衆審査を実施することが委員全員の賛成により承認された。

(8-8) コンクリート製原子炉格納容器（CCV）規格に関する審議【資料 66-20-1~4】

コンクリート製原子炉格納容器規格分科会の西澤幹事よりコンクリート製原子炉格納容器規格改訂案の原子力専門委員会再書面投票（可決）コメント対応案に関する説明が行われた。議論の結果、規格委員会書面投票を実施することが委員全員の賛成により承認された。主な議論は以下の通り。

- ・今回の CCV 規格の改訂案は I S I の規定を取り込んでいるが、設計規格に維持に関する規定を取り込んで良いのか？→再処理設備規格では規格を設計、維持、溶接の 3 部構成としている。これに対して CCV 規格の場合、溶接は事例規格として分冊としているが維持は設計・建設規格本文に組み込んでおり、確かに扱いが統一されていない。本件について、原子力専門委員会で考え方を整理する。
- ・ASME の CCV に関する規定は一部 AC I も取り込んでいるが、日本の場合、CCV 規格に JASS5N を一部取り込んでいる。両方で整合は取れているのか？→整合は取れている。
- ・JSME で建築に関する規程に責任を持てるのか？→分科会、専門委員会に建築の専門家がいたので問題ないと考えているが、規格作成までのプロセスを整理する。
- ・今後シビアアクシデント対応の設計を考えると、どちらの規格を使うのか？という議論が出てくるのではないのか？→ 検討する。

(9) ASME 規格関係委員会の活動状況報告【資料 66-21】

齋藤氏（伊藤委員代理）より ASME 規格関係委員会の活動状況報告に関する説明が行われた。

(10) 今後の予定

今後の発電用設備規格委員会の開催予定は以下の通りとなった。

第 67 回規格委員会：2013 年 12 月 12 日（木）10:00~17:00 JSME 第 1 会議室

以上